

式 辞

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、罹患した方々にお見舞いを申し上げますとともに、拡大の防止に尽力されている方々に感謝し、事態の早期終息を願っています。本日は、これから未来に向かって飛び立っていく卒業生・修了生の皆さんにとって、節目となる大切な日であり、ご家族の皆様も含めて学位記授与式で祝い喜び合うことができないのは大変辛い思いですが感染拡大防止のためです。どうかご理解ください。

さて、本年は学士 940 名、修士 351 名、博士 15 名、合計 1306 名の皆さんに学位記を授与しました。また、このキャンパスで指導を受け東京農工大学から博士の学位が授与された方が 7 名いらっしゃいます。それぞれの学位を修め、巣立っていく皆さんに、そしてこの日を心待ちにしてこられたご家族の皆様に、宇都宮大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。本当におめでとうございます。

また、この中には 45 名の留学生の方がいらっしゃいます。母国を離れ言葉や生活習慣の違いも乗り越えながらの学位取得、本当にご苦労様でした。

さて、皆さんがこれから飛び込んでいく社会は、少子高齢化や人口減少と地方の衰退といった社会的課題に加え、グローバル化やデジタル革命に伴う産業や就業構造の変質、これらとも連動した経済状況など、歴史的な転換期にあります。そして今回のようなパンデミック的な感染症の拡大や頻発する自然災害などが、社会環境の厳しさを一層増しています。さらには自由経済や民主主義といった現代社会を支えてきた基本的な仕組みそのものが世界的にも揺らいでいます。言い換えれば、皆さんは、これまでの延長線では対応できない社会に飛び込んでいくのです。そんな皆さんに一つのことだけお伝えしたいと思います。

それは皆さんが授与された「学位」の意味です。

これは私の持論ですが、学位は「学」と「位」二つの観点から考える必要があります。まず「位」ですが、これには品格という意味があります。学位の取得までには、ご家族、あるいは熱心な指導教員やよき友人など多くの方々の支えがありました。更に、本学での教育にかかった費用の三分の二近くが国民の税金で支えられています。さまざまな支えに対する感謝とそれに報いる責任感、こうした認識こそが人間としての品格の基礎です。一人よがりではなく、相手の考えや立場を尊重し、感謝を忘れない生き方、それは全ての仕事の中で、さらにはグローバル化が進めば進むほど大切になってきます。ぜひとも、学位という言葉に込められた、人間としての品格を強く意識し、それを磨き続けて欲しいと思います。

次は「学」についてです。「学」はもちろん「学ぶ」ということですが、では皆さんは
いったい何を学んだのでしょうか。

学士、修士、博士、それぞれ到達レベルは異なりますが、広い教養に基づく学術的な素
養や知識を修得した証明です。しかし皆さんが大学で身につけた知識そのものは、社会の
中で通用しないことの方が多いでしょう。また、仮に直ぐに役立つ技能を習得したとして
も、それは直ぐに旧くなってしまいます。しかし、安心してください。皆さんは、学位を
取得する過程で、どんな局面でも役立つ大切なものを学んだのです。

例えば学位論文を作成した時のことを思い出して下さい。現実の問題に基づいた課題の
設定、課題を解くための新たな知識習得、新たな事実を把握・実証しようとする探求心と
柔軟かつ論理的な思考、事実を客観的かつ体系的に整理し伝える経験、そして、あきらめ
なければ困難は乗り越えられるという自信など、さまざまなものを身につけたのです。こ
のような知的活動の連鎖こそが大学での学びの本質であり、新しい社会を生き抜く最大の
武器となるのです。皆さんは本学で身につけた「学」を一生の財産として大切にしたいと思
います。

いま皆さんの肩にかけられたストールには宇大スピリッツ「3C精神」を象徴する3本
の線が描かれています。すなわち明るい未来を開拓するため主体的にChallengeする

「C」、時代の変化に対応し自らをChangeさせ「C」、そして広く社会に
Contribution・貢献することの「C」です。時々はこちらを思い出し、失敗を恐れずに挑戦
し、満足ゆく人生を送っていただきたいと願っています。本学で学位を授与された皆さん
なら、どんなことがあっても必ず乗り越えられるはずです。

結びになりますが、皆さんのこれからの人生の中では、迷い悩み、誰かに相談したくな
ることもあるはずです。あるいは違った切り口の学びが必要になることがあるかも知れま
せん。そんな時には、いつでも宇都宮大学に戻ってきてください。指導教員をはじめ教職
員一同、一緒に考え、あるいは新たな学びを提供し、皆さんを支援したいと思っていま
す。宇都宮大学は皆さんにとって、いつでも戻ってくることができる母校、いつまでも信
頼できる母校であり続けたいと思っています。

そんな思いを込めて、こんな言葉で締めたいと思います。

皆さん、行ってらっしゃい。良き人生を！

令和二年三月二十四日
国立大学法人 宇都宮大学学長
石田 朋靖